

7月1日

## 福者ペトロ岐部司祭と一八七殉教者

記念日

きょう記念する一八八人の殉教者は、江戸時代初期の一六〇三年から一六三九年に日本各地で殉教した人々である。その出身地は新潟・東京・京都・大阪・広島・福岡・長崎・大分・鹿児島の九教区におよんでいる。一八八人のうち、司祭は四人、修道者は一人で、他の一八三人は男女の信徒であった。これらの信徒は、武士・農民・漁師・伝道師などさまざまな社会的立場の人々であり、家族で殉教した人々も含まれている。キリストの福音を勇気をもってあかしした一八八人は、二〇〇八年十一月二十四日に長崎で列福された。

殉教者共通

読書

### 第二朗読

#### 福者ペトロ岐部司祭がルバング島からイエズス会総会長補佐に送った手紙

神の恵みの風が吹き、それに信頼して帆を張る

わたしは、およそ二年間、マラッカに滞在して、主において日本へ渡る機会をあらゆる方法を尽くして探しました。しかし、それは無駄なことでした。日本では將軍の命令によって、日本人も、ましてや外国人も、外国で何年間か過ごした者は、他の宗教の信者もキリスト教徒も、仏教のいずれかの宗派に属することを公言し、自分の印を押して誓約しないかぎり、絶対に船で渡航することはできないと布告されたからです。そのため、わたしは、自分にかかわることすべてについて希望を失ってしまいました。マカオに戻る機会を探していたとき、折よくマニラの総督から遣わされた船が着きました。この機会に、わたしはフィリピン諸島に行くことができ、そこからマカオへ渡ろうとしました。しかし、全知の神は、別のことを計らってくださいました。すなわち、イエズス会会員の松田ミゲルと在俗司祭伊予いよジェロニモと相談し、船を買い上げて日本人の船長と水夫を雇うことにしました。そして、篤信とくしんの方々の施しやわたしたちの管区の援助を得て、必要なものをすべて整えた後、一六三〇年三月二日にマニラを発ちました。

わたしたちは、先に述べたルバングという島に留まり、六月ごろに航海に適した天候になるのを待っています。いつくしみ深い神が、わたしたちの旅と計画を支え、望みをかなえてくださいますように。わたしたちは天からの、とりわけわたしたちの父イグナチオと使徒フランシスコ・ザビエルの助けを願っています。たとえ、わたしたちが彼らの息子としてふさわしくない者であるとしても、これほど大きなことを成し遂げるのを、わたしたちの過ちのゆえに神がお見捨てになることがありませんように。もし神の恵みの風が吹き、それに信頼してわたしたちが帆を張り、無事に日本へ導いてくださるなら、自分たちの旅

について、また日本の教会の状態についても、神父様に詳しくご報告いたします。折にふれて、聖なる祈りとミサにおいて、わたしのために神に祈ってくださることをお忘れにならないよう、キリストを通して、神父様に心からお願いいたします。また、フランシスコ・ヴァス神父様にも、わたしからくれぐれもよろしくとお伝えいただきたく存じます。

一六三〇年五月七日 ルバング島にて

キリストにおいて取るに足りないしもべ  
ペトロ・カスイ

**答唱** (ガラテヤ 6・14、フィリピ 1・29 参照)

**先** わたしたちには、主イエス・キリストの十字架のほかに誇るものがない。  
キリストのうちに救いといのちと復活がある。

**答** わたしたちはキリストによって救われ、解放された。

**先** あなたがたには、キリストを信じるだけでなく、  
キリストのために苦しむことも恵みとして与えられている。

**答** わたしたちはキリストによって救われ、解放された。

### 結びの祈願

全能永遠の神よ、  
人間の弱さの中で働かれるご自分の力によって、  
あなたは、福者ペトロ岐部と一八七人の殉教者を強めてくださいました。  
殉教者の模範と取り次ぎによって、  
わたしたちが聖霊に導かれ、  
あなたと兄弟姉妹の救いのためにいのちをささげ、  
キリストへの信仰を力強く、喜びをもってあかしすることができますように。